



私のすすめるこの1冊

上床 輝久（保健管理センター 教授）

『ミュージック・ブレス・ユー!!』

津村 記久子（著）

ある「洋楽おたく」の女子高生が過ごした夏休み前から卒業までの青春群像小説といってしまうとそれだけだ。にもかかわらず、私は、この本を「無人島に持っていく一冊」だと思っている。なぜなら、この小説には、自分が精神科医として出会ってきた若者の尊い感性と苦悩が、緻密かつ丁寧に散りばめられていて、全ての文がリアルで、何度読んでもとっても面白いからなのだ。

髪を赤く染めた長身の主人公、アザミは、小学生の頃から、じっとすわっていることができない「問題のある子」と言われ続け、高校生になった今も、側から見ると迂闊で散漫、時に突飛で、自分を「最低」だと思っている。また、ほとんどの時間をヘッドホンから流れるオルタナ・パンクロックを聴きながら過ごし、時に、音楽が鳴っている「何分間をおびただしく重ねることによって延命しているだけだ」と思っていたりする。そんな彼女は「自分のことがわからない」と感じながらも、場当たりの把握しづらい他者や、掬おうとしても溢れ続ける砂のように記憶に残らない現実世界を、できる限り正確かつ論理的、繊細に捉えようと精一杯誠実に生きている。

物語の中で重要な役割を果たすのは、ロックフェスをきっかけとして知り合い、アザミの意図を本人以上に理解する「チユキ」や、アザミと同じくらいかそれ以上に洋楽を愛する「トノムラ」、海外で音楽コミュニティウェブを運営する天真爛漫な「アニー」だ。音楽という共通項と、当然のこととして彼女を尊重する繋がりの中で、ゆるやかに彼女は成長してゆく。

物語には、「力のある人間がない人間を瞬間的に見抜いてたわむれにねじふせるような」、つまり、人に順位づけをしてその尊厳を踏み躪る大人たちが登場する。一見軽やかで儚い若者たちの世界に影を落とす理不尽な「暴力」への抵抗と挑戦がこの小説に底流するもう一つのテーマだ。

学校を舞台とするこの作品に登場するのは、そんな世界を代表する「先生」たちの存在だ。明らかに強者側に立つ運動部顧問や、扱いきれない子どもの人生を全否定する小学校担任といった教師の中で、「東京弁の先生」はさりげなく、しかし確実に彼女の側に立ち、彼女に大切なものの価値をみとめ、気付かせ、励ましつづけるのだ。

アザミにとって音楽は、一貫して救いであることに変わりはないが、さまざまな別れを前に、彼女は、自分を尊重し、大切に扱ってくれる他者の存在を音楽とともに内在化し、「ヘッドホンもかぶっていないし、何も持っていないし、これからもそうだけど、じぶんはひょっとしたら、音楽を聴いたという記憶だけで生きていけるのではないか」と思う。

物語の最後は、突然友人を失ったアニーが直面する喪失の苦しみをどうやって掬い上げればいいのか？という問いで締めくくられる。すでに、ありありと見えている答えを反芻しながら、私は毎回思うのだ。「やっぱり音楽って素晴らしい!!」と。

第40回 うたとおはなしの会 報告



12月13日(土)に、幼児教育演習室にて第40回「うたとおはなしの会」が開催された。当日は12月らしい冷たい空気の中、手ぶくろやマフラーを身につけて大勢の親子が集まった。

まず最初に幼児教育専攻学生9名が「ゆきだるまのチャチャチャ」を歌いながら登場すると、待ちかねた子どもたちから大きな拍手がおこり、楽しい雰囲気会が始まった。続く、パネルシアター「すてきな帽子屋さん」では、帽子を買いにくる動物たちを興味深そうに見つめ、似合う帽子を探して「ピンクのがいい」と、身を乗り出して指さすなど、お話の世界を楽しむ子どもたちの姿が多く見られた。

続いて、「もろびとこぞりて」を奏でながら、どれみふあそったくん扮する「森の音楽隊」が登場すると、本物の楽器を子どもたちが珍しそうに見つめていた。音楽隊は、ルロイ・アンダーソン作曲「そりすべり」を演奏した後、クラリネット、ホルン、サキスホーン、ピアノなどの楽器をメロディーを奏でながら紹介した。そこへ、学生が扮するサンタクロースがトナカイを連れて登場した。サンタは、最近元気がないトナカイを元気づけるために歌をうたって慰めてあげよう、と提案し「赤鼻のトナカイ」を歌い演奏した。歌のおかげでトナカイも元気になり、音楽隊の楽器や歌にすっかり魅了された子どもたちは、最後に音楽隊といっしょに「あわてんぼうのサンタクロース」を演奏することになった。学生に楽器を手渡されると、自分も音楽隊になったような気分で鈴や太鼓を意気揚々と鳴らす姿が見られた。1歳男児と参加した保護者は「初めて参加しましたが、息子は楽器に興味津々でした」と感想を述べていた。

楽器演奏で盛り上がった後は、手遊び「いとまき」を親子で楽しみ、続いて最後の演目、人形劇「ブレーメンの音楽隊」が始まった。家を追い出されたロバ、犬、猫、鶏が、知恵をしぼって泥棒を追い出す有名なシーンでは、暗闇の中、4匹の影が幕に大きく映し出され、その瞬間子どもも大人もその演出に目が釘付けになっていた。3歳女児と参加した母親は、「影絵が見事でした」と感想を述べていた。

エンディングでは出演学生と来場者全員で「ジングルベル」を合唱して閉会した。子どもたちには、学生手作りのおもちゃ(登るサンタ)がプレゼントされ、大喜びの様子だった。3歳と1歳の女児と参加した保護者は「45分間集中して観られるプログラムでした。4月も是非来たいです」と感想を述べていた。

「うたとおはなしの会」は今回、40回目の節目を迎えた。ここまで継続してこられたのは、附属図書館の職員の皆様、地域の皆様のご支援の賜物である。これまで会の運営に携わって下さったすべての方に心から感謝申し上げるとともに、今後も学生と共に、地域の親子の心に響く会となるよう努力を重ねていきたい。

幼児教育科 平井恭子



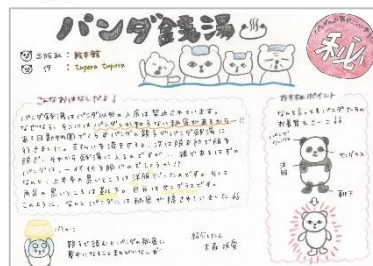
児童書コーナー(南館1階)

幼児教育科主催
えほんのもり

今月の絵本カード(学生作)

『パンダ洗湯』

作:tupera tupera
出版社:絵本館



※児童書コーナーに
かわいいカードが
飾られています。
ぜひ見に来てくだ
さい。

京都教育大学 それはかなう夢講座

「それはかなう夢講座」では、本学の教職員が、学部、大学院のすべての専攻、研究科の学生や教職員の皆さんを対象に、科学の魅力をわかりやすくお伝えしていきます。

第49回の報告

YouTubeで公開されています

【講師】西山 由美

(教職キャリア高度化センター 教授)

【テーマ】大丈夫！ ほぼ何とかなる！

主催:「現代的ニーズを踏まえた「理系」教員養成のための
カリキュラム開発」プロジェクト委員会

後援:京都教育大学同窓会・京都教育大学附属図書館

※今までの回も
視聴できますので、
ぜひご覧ください



学修相談カウンター：学修支援員が作成したパスファインダーを発行しました！

パスファインダーとは、テーマごとに、学修に役立つ資料や調べ方などをまとめた「探し方の道しるべ」です。

学修支援員が各自の得意分野でパスファインダーを作成しました！附属図書館にありますのでご自由にお持ち帰りください。HPでも公開しています。

学修相談カウンターでは、レポートや卒論などさまざまな相談を受け付けていますので、ぜひ気軽にお越しください！

【場所】北館2階ラーニング・コモンズ

Web フォームもあります。



Web 相談
フォーム

時間が合わない、いきなり対面相談は緊張する…などの場合はフォームでの相談も受け付けています。

新着電子BOOKのポスターを展示しています

新規に購入した電子書籍のポスターを、「新着図書コーナー」の横で展示しています。各ポスターの下側にあるQRコードは切り離し可能ですので、読みたい本／興味がある本があれば切り取ってお持ち帰りください。

なお、学外から電子書籍を利用する際は「学認でサインイン」を選択し、学内アカウントのID・パスワードを入力してください。



"Special Request Weeks"の選定本の展示をしています

10月30日(木)～11月16日(日)に開催した"Special Request Weeks"で購入した本です。

誰でも自由に借りられます。

【期間】12月19日(金)～2026年2月10日(火)

【場所】1階渡り廊下



リクエストと投票で話題の本を読もう

学習研究以外のリクエスト本を一定期間掲示し、皆さんの投票で購入する本を決定するリクエスト企画です！リクエストや投票にぜひ参加してください！

【投票期間】12月18日(木)～2026年1月22日(木)

今年度
最終です！

日曜開館します！

試験期間前の2月1日、8日を開館(10:00～17:00)します。

試験勉強などにぜひ！

冬季休業に伴う長期貸出について

返却期限は、1月13日(火)です。

春季休業に伴う長期貸出について

学部生:1月28日(水)～4月2日(木)

院生・教職員:1月14日(水)～3月19日(木)

【返却期限日】4月17日(金)

・好評開催中！ ※本学は連携参加大学です
第13回京都・大学ミュージアム連携 スタンプラリー

8月30日(土)～2026年3月16日(月)

・今年も開催！ 第9回ミュージアムロード スタンプラリー
1月21日(水)～3月15日(日)

教育資料館 まなびの森ミュージアム



【1月の開館日時】

12日(月・祝)、19日(月)、22日(月) 14:00～17:00



今月の逸品(1～3月)

『須恵器平瓶 (すえき へいへい)』
(6世紀 京都府与謝野町出土)

展示場所:附属図書館

教育資料館 まなびの森ミュージアム

<https://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/>

論のくちび理のむすび

今回の執筆者 榎下 達也 (音楽科 准教授)

教員養成大学における学生主体の音楽アウトリーチ活動 —京都教育大学「どれみふぁそったくん」の10年間—

榎下達也・鈴木淳之介・田邊織恵

京都教育大学紀要 2025, No.147, pp.69-86
URI:<http://hdl.handle.net/20.500.12176/9956>



この論文は、本学の学生による音楽アウトリーチ団体「どれみふぁそったくん：子どものためのアウトリーチ」の活動を整理し、音楽教員養成の視点からその意義を示す実践報告です。「どれみふぁそったくん」は本学の e-Project に 2015 年度に採択されて以来、現在まで継続して活動してきました。近隣の小学校や児童館などに
出向いて音楽演奏を行うことを主な活動内容とし、音楽領域専攻の学生を中心に、依頼者との連絡から企画・運営までほとんど全ての活動を学生だけで実施しています。

共著者の鈴木さんは 2021 年度から 2024 年度までこの活動で中心的な役割をつとめた本学の卒業生です。また田邊先生はこの 10 年間の活動において一貫して助言教員をつとめた立場から過去の活動を振り返っていただきました。榎下は音楽教育研究を専門とする立場から、音楽教員養成と関わらせてこの活動の意義を考察しました。

本稿では、過去 10 年間の活動のうち前半の5年間は「授業内型アウトリーチ」が行われることが多く、後半の5年間は「演奏会型アウトリーチ」が行われることが多いことなどを明らかにしました。また音楽教員養成の視点から考察すると、音楽領域専攻生の多くが参加するこの活動は、学生の自律的で協働的な学びの場として機能し、音楽教員としての実践的技能の習得の場となっていることが指摘されました。

本稿は本学の e-Project の意義を再確認する内容にもなったと考えています。e-Project に採択された活動を実施中の、あるいはこれからプロジェクトを立ち上げようとしている学生の皆さんや指導助言の先生方にも、ご一読いただけると嬉しいです。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要147号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<https://ir.kyokyo-u.ac.jp/>に掲載されています。

開館日程 □9:00-20:00 □9:00-17:00 □10:00-17:00
□9:00-21:00 ■休館(CLOSED)

2026年1月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

1/6 授業再開
1/17-1/18 共通テスト
1/24-1/25 臨時閉館

2026年2月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

2/4-2/10 後期末試験
2/7 大学院入試
2/25-2/26 前期入試

※開館日程につきましては、変更となる場合がございますのでホームページをご確認ください。

●京都教育大学附属図書館ホームページ
<https://www.kyokyo-u.ac.jp/library/>
(二次元コード→)



京教図書館 News No.304 (2026年1月号)
発行日:2026年1月6日
編集発行:京都教育大学附属図書館
問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp

国立大学法人
京都教育大学
KYOTO UNIVERSITY OF EDUCATION